

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 英語英文学科

回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
学科	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化※	発達心理※	初等教育	学部計	
回答数	92	115	99	306	65	53	72	190	496
卒業生数	95	117	106	318	65	54	72	191	509
回答割合	96.8%	98.3%	93.4%	96.2%	100.0%	98.1%	100.0%	99.5%	97.4%

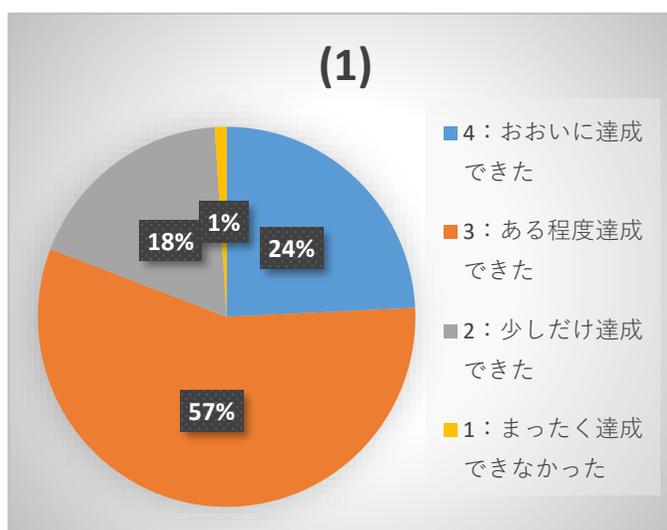
※文学部児童文化学科卒業生1名を含む

卒業生数には2019年9月卒業生、2020年3月卒業生を含む

（1）時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	24
3：ある程度達成できた	56
2：少しだけ達成できた	18
1：まったく達成できなかった	1

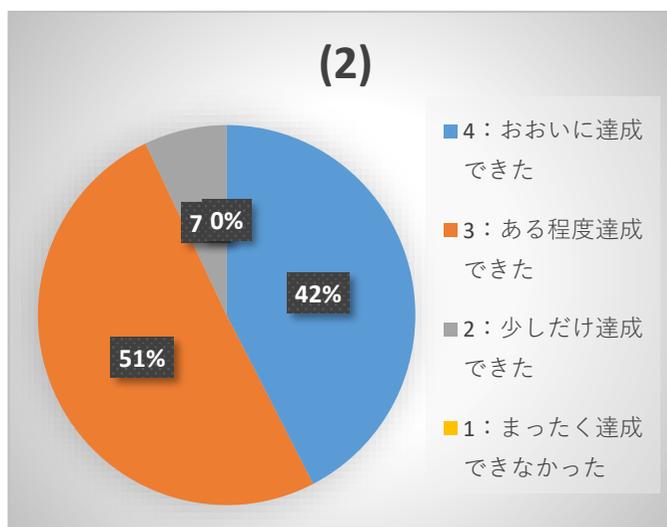
99



（2）時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	42
3：ある程度達成できた	50
2：少しだけ達成できた	7
1：まったく達成できなかった	0

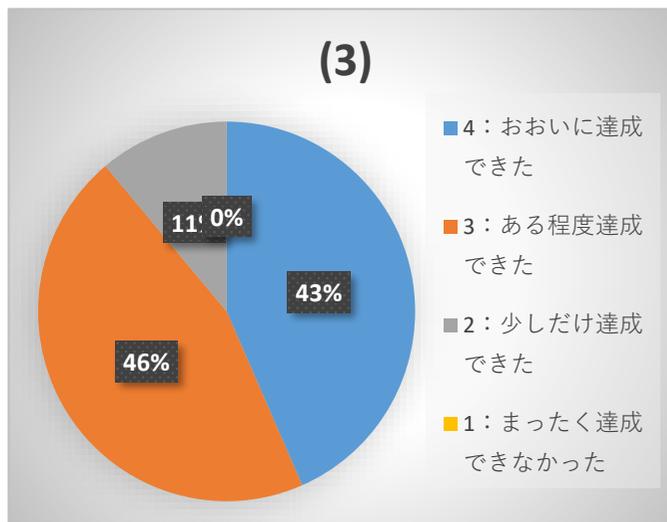
99



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 英語英文学科

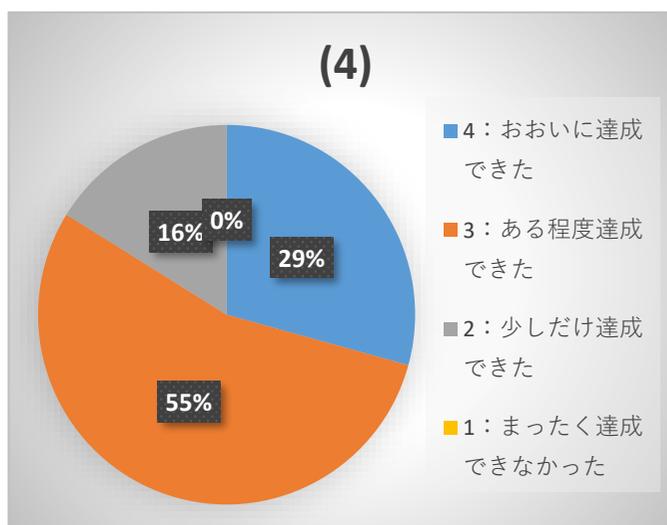
(3) 現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	43
3：ある程度達成できた	45
2：少しだけ達成できた	11
1：まったく達成できなかった	0
	99



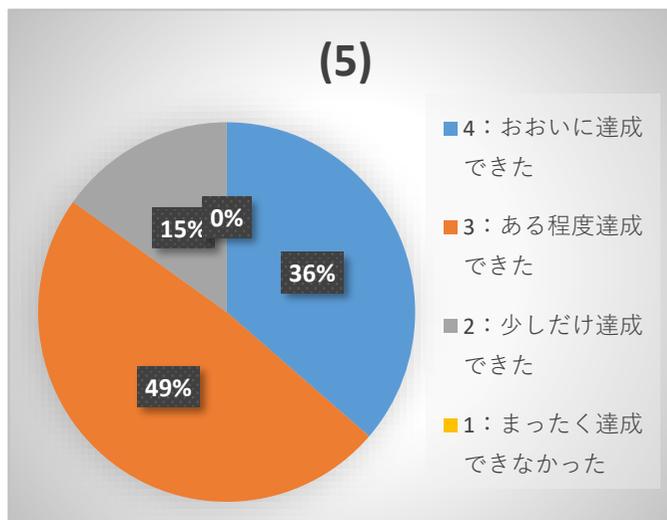
(4) 専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている。

4：おおいに達成できた	29
3：ある程度達成できた	54
2：少しだけ達成できた	16
1：まったく達成できなかった	0
	99



(5) 専攻する言語や文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。

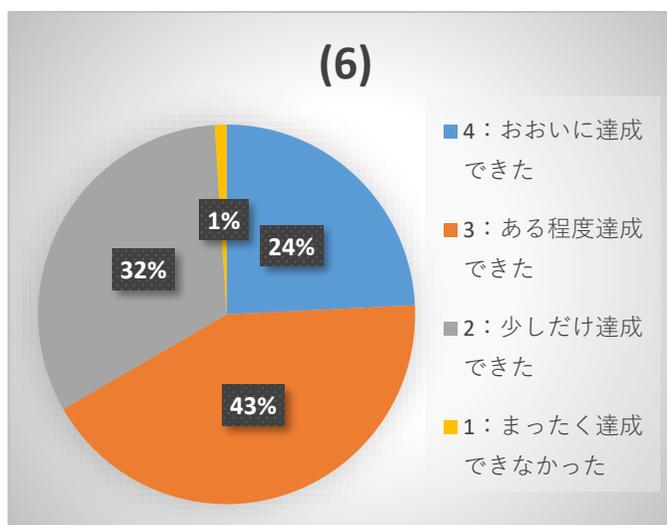
4：おおいに達成できた	36
3：ある程度達成できた	48
2：少しだけ達成できた	15
1：まったく達成できなかった	0
	99



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 英語英文学科

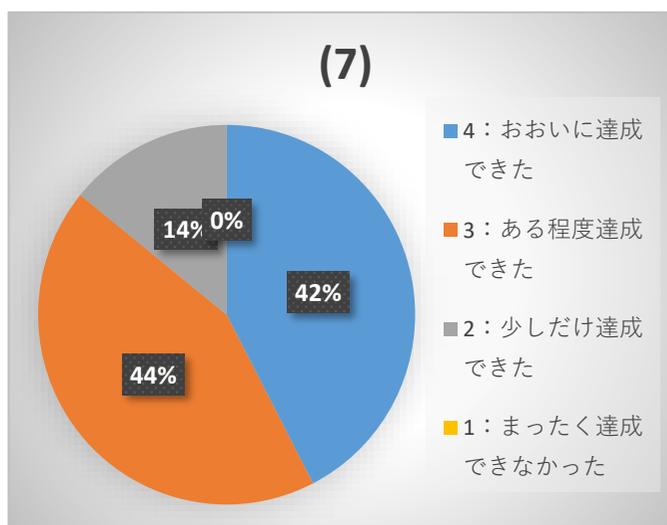
(6) 専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	24
3：ある程度達成できた	42
2：少しだけ達成できた	32
1：まったく達成できなかった	1
	99



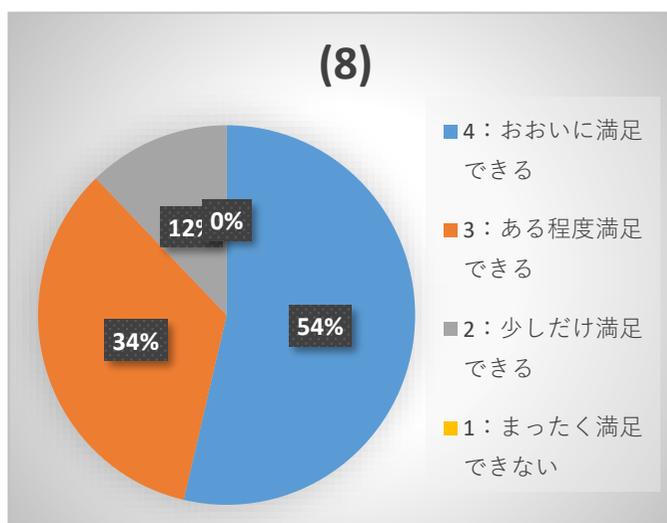
(7) 異文化と自文化とを見渡す豊かな教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	42
3：ある程度達成できた	43
2：少しだけ達成できた	14
1：まったく達成できなかった	0
	99



(8) 大学4年間の学修を通じて、あなたは満足のいく成果をあげたと感じますか。

4：おおいに満足できる	44
3：ある程度満足できる	28
2：少しだけ満足できる	10
1：まったく満足できない	0
	82

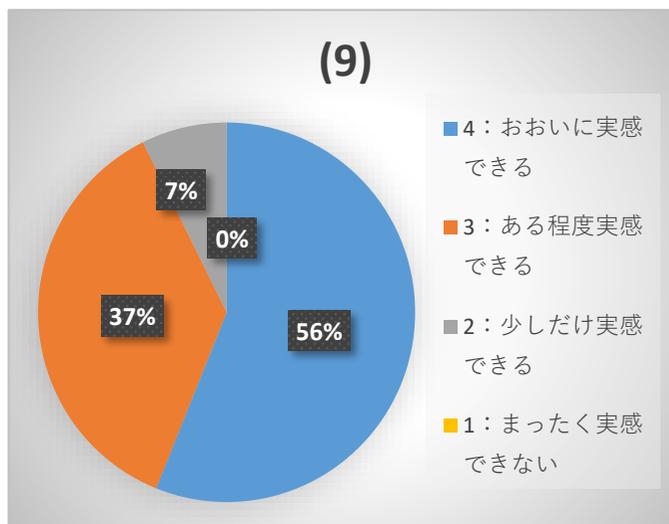


学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 英語英文学科

(9) 大学4年間の学修を通じて、あなたは自分が成長したと実感しますか。

4：おおいに実感できる	46
3：ある程度実感できる	30
2：少しだけ実感できる	6
1：まったく実感できない	0

82



2019年度卒業時アンケートに関する考察（英語英文学科）

(1) 英語英文学科では、全ての質問において、80%以上の回答者が「4」か「3」を選択している、という結果は、同学科が「ディプロマ・ポリシー」に基づく、適切な教育を行ってきたことの証左である。9つの質問項目のうち8つにおいて、「4. おおいに達成できた」あるいは「3. ある程度達成できた」と回答した者の合計が80%を超えており、英語英文学科の教育がある程度成功していると推測される。

(2) 特に、質問2「自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている」および質問9「自分が成長したと実感しますか」に対して、「4. おおいに達成できた」あるいは「3. ある程度達成できた」と回答した者の合計は90%を超えており、英語英文学科の教育が学生の人間の成長にも資するものであったと推測される。今後は、回答者の「氏名」「GPA」「コース（英文の場合）」も明らかにすると、より精緻な分析を行うことが可能となる。

(3) しかし、質問6「専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている」に対しては、「4. おおいに達成できた」あるいは「3. ある程度達成できた」と回答した者の合計は67%にとどまっており、実践的な英語能力の涵養においては大いに改善の余地がある。質問6につきまして、英語運用能力が乏しいままで卒業され学生が少なからずいることは今後の大きな課題であり、改善の手立てを学科を挙げて模索する必要があると思います。

その一方で、「高度なコミュニケーション能力を身につけている」という質問自体が回答者に高いハードルを意識させるものであり、また学生自身が理想とする「高度なコミュニケーション能力」は高いと思えることから、入学時の英語の学習到達度にかかなりの偏差がある現状において、他の質問と比べて質問6への肯定的な回答の割合が低めに出るのはやむを得ない部分があるのかもしれない。

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 英語英文学科

(4) 回答者は99名であるにもかかわらず、質問8と質問9の回答者は、17名少ない82名である。（文学部全体のアンケート結果を見ても、回答者は306名、質問8と質問9のみ、回答者261名となっている。）アンケート形式に改善の余地があるのではないか。